

2019年度活動報告書

2019年04月01日～2020年3月31日

【2019年度活動の方針】

2018年12月17日付で、当会は一般社団法人（非営利型）を取得し、設立からの課題であった、モザンビーク国内の日本機関との情報共有の円滑化を目指し、首都マプトの大使館及び JICA への訪問を低規定に行いたい。（2019年度は新型コロナウイルスの影響にて首都に渡航できず）

新たなプロジェクトでは、ペンバ地区で初の井戸の掘削を寺子屋にて実施。また2018年12月にナティティ地区で購入した土地での『環境と公衆衛生と栄養の学び舎・COMERTO(コメルト)』計画に着手。2019年4月にモザンビーク観測史上最大級のサイクロンが当会活動地区に上陸、また12月末にも暴風雨がペンバを襲い、スラム地区全域浸水や家屋の倒壊等、甚大な被害を受けたこと、また住民の防災知識が皆無なことから、増加する気候変動の影響もふまえ、COMERTOの防災教育及び避難場所として利用できるよう、2019年度から外壁の整備を開始。また洪水被害のないエспанサオン地区で購入した土地では、食料保存倉庫として活用すべく、外壁の建築に取り掛かった。

スラムの学び舎・寺子屋と事務局での教育活動は継続・発展し、ナミビアの孤児院とのスカイプ交流を実施。また、2018年5月から当会活動地で、日本企業も参入する北部ガス田開発を起因としたイスラム過激派のゲリラ攻撃が勃発し、ペンバ市においても治安がさらに悪化し当会も被害も受けているため、防犯・設備の強化を行った。また緊急活動としてテロ被害者への食糧や浄水器の配布を行った。2019年度末の世界的新型コロナウイルス禍により食糧危機が深刻化しているため困窮家庭への食糧配布も実施している。

2015年度から継続している国際相互理解のための音楽と文化交流ツアーは初の欧州公演を実施。非常に好感触であったため、欧州の人のつながりを拡大していく。

2019年度の活動に関して、引き続き、毎月日本事務局とモザンビーク事務局にてインターネットを用いたスカイプ会議及び役員会を実施する。

★2019年の事業目標★

安全・防犯体制の強化と、新規プロジェクトへの地道な着手。

（具体的な注力事項）

- ⇒自然災害による被災・細菌感染等の疾病死亡率を低下するための公衆衛生教育（井戸設置含む）。
- ⇒環境と公衆衛生と栄養の学び舎・COMERTO とエспанサオン食料保管倉庫の工事着手。
- ⇒国際相互理解推進活動の欧州での活動開始。

【2019年度の活動計画骨子】

<組織基盤整備> 長期的な活動の持続可能な経営・ネットワークづくり。

- ・ モザンビーク行政認証共同組合の認証
- ・ 日本・モザンビーク・アフリカ圏内におけるネットワークづくり
- ・ 事務局及びスラムの学び舎・寺子屋の設備整備と防犯強化
- ・ 寄付システムの整備

<教育活動> ペンバ市・スラムの学舎・寺子屋及び事務局での教育活動。

- ・ 事務局と寺子屋のこども教育の継続（注力項目：ICT教育）
- ・ 環境と公衆衛生と栄養の学び舎・COMERTO計画開始

<公衆衛生と食育活動> 基本的衛生知識教育の普及と実践活動、食育活動。

- ・ 寺子屋と事務局でのこども公衆衛生教育
- ・ モリンガとフルーツの育成による食べられる緑化

<水環境と有機農業活動> 安全で効率的な水環境整備と有機農業の実践。

- ・ クイサンガ農村地区◇野菜の栽培（農村アソシエーションと協働）
- ・ 【最重要活動】スラムの学舎・寺子屋への井戸の設置
- ・ エспанサオン地区◇作物保管倉庫の建築

<環境保全活動> 実践環境美化と未来を見据えた環境保全教育の実施。

- ・ ペンバ環境美化活動（第4回）
- ・ こども環境教育ワークショップ

<国際交流活動>

グローバル社会における創造的意識づくり（人づくり）活動。

- ・ 日本の教育施設等での講義活動、ワークショップ、スカイプ交流
- ・ 第4回アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアー（日本及び欧州）

<その他、緊急テロ被害・新型コロナウイルス支援活動等>

- ・ クイサンガ農村地区◇ゲリラ攻撃被災者への支援として食糧・浄水器配布
- ・ ナティティ地区◇テロ及び新型コロナウイルスによる飢餓対策のための食糧配布

【2019年度の主な活動】

● 組織基盤整備

長期的な活動の持続可能な経営・ネットワークづくり。

《モザンビーク政府認証共同組合の認証》

2018年に申請したモザンビーク政府認証共同組合（Progresso para Vive rem Mocambique:PVM、代表：Luis Valerio）の認証。承認番号が発行された。法人番号：101186768。

今後、モザンビーク機関の助成金申請も可能となり、行政からの広報支援も期待できる。

《日本・モザンビーク・アフリカ圏内におけるネットワークづくり》

特にモザンビーク国内の日本機関との連携不足が一番の課題であり、首都マプトの日本大使館・JICAを訪問、日本政府機関からの情報がほとんど無いため、情報共有願いを出した。また日本のNGO/NPO、機関ともSNSなどを利用しつながりをもった。アフリカビジネス協議会、TICAD-NGO連絡グループに参加。ナミビアの孤児院（Amitofo Care Center）とスカイプ交流も実施。日本のネットワークは来日講義時に強化し、福島県の障害者施設との活動連携も実施した。

《事務局及び寺子屋の設備整備と防犯強化》

2017年10月に口火を切ったイスラム過激派のテロ攻撃が、2019年から当会活動地区で激化し、当会の協同組合の農村地区の事務所が焼かれ、代表者も行方不明となっている。これまで子供を含む1200名が惨殺され、20万人近くが難民となり当会事務所のあるペンバに避難している。

テロの不安も高まり、また治安も悪化。当会も盗難被害を受けているため、2019年度も引き続き、事務局と寺子屋の防犯・安全対策を行った。

またサイクロンや暴風雨により、寺子屋及び事務局の屋根、天井、汚水タンクの修理が必要となったため修理を行った。



事務局スペースの建屋強化・拡張リフォーム。



事務局トイレも全面建築。

《寄付システムの整備》

当会ではホームページ上に当会銀行口座を記し、寄付の案内を行っているが、クレジットカードで決済できる寄付が無かったため、寄付決済サービス・シンカブル（株式会社 STYZ）に申請登録を行いクレジットカードでの寄付システムを整備した。

シンカブル内当会ページ：<https://syncable.biz/associate/tsunagukai/>



【 教育活動 】

ペンバ市スラムの学舎・寺子屋及び事務局での教育活動。

《事務局と寺子屋のこども教育の継続》 ICT 教育へ注力

引き続き、スラムの学び舎・寺子屋でのこども教育を継続。算数（足し算、引き算、九九）、英語、音楽をはじめ、日本語教室や、パソコン教室を実施。 ICT 教育強化のため機器購入。アフリカ圏内では初となるナミビアの孤児院（Amitofo Care Center）とスカイプ交流を実施し日本では福島県の軽度障害者施設（むすび）とスカイプ交流を行った。



個人レッスンを実施中の事務局で電気修理とタブレットを使った英語の勉強



新年・寺子屋子供会議



英語発表会

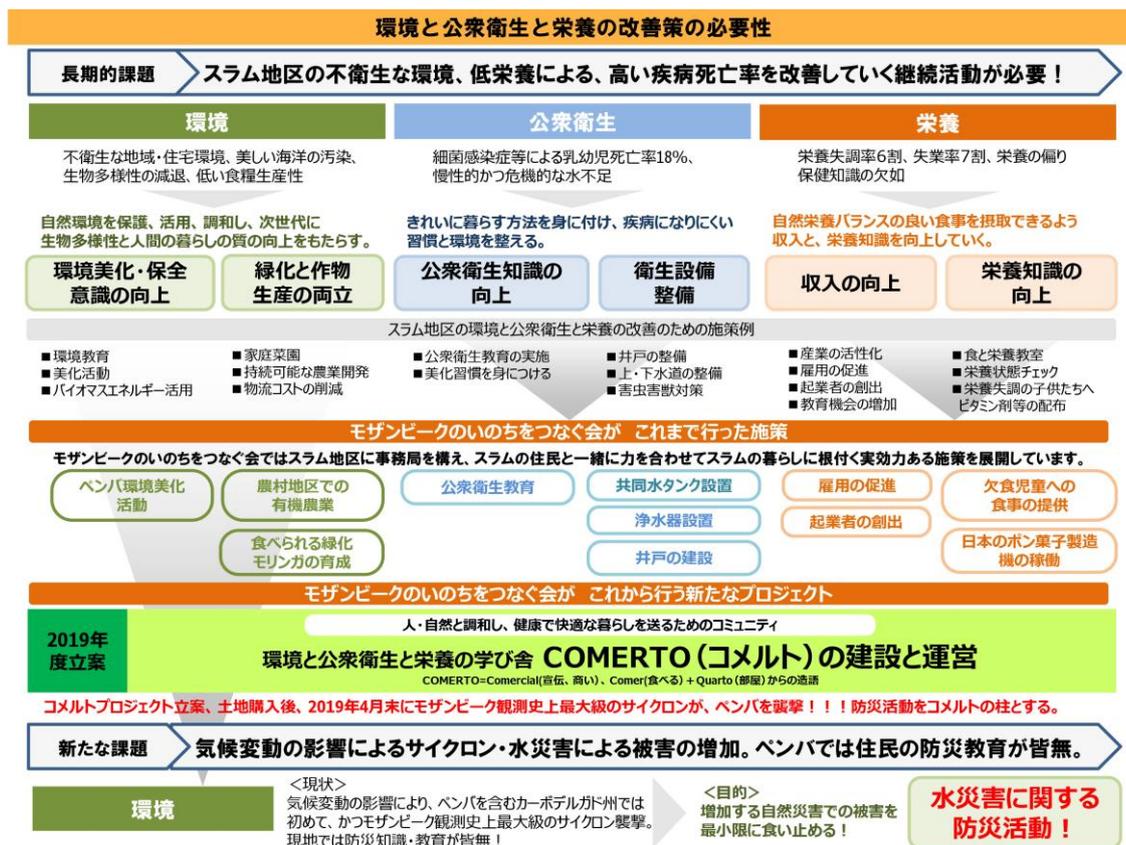


スカイプ交流

《環境と公衆衛生と栄養の学び舎・COMERTO 計画開始》新プロジェクト

スラムの住民のコミュニティの場、人と自然と調和し、健康で快適な暮らしを送ることを目的とした、環境と公衆衛生と栄養の学舎・COMERTの活動に着手。2019年度に上陸した巨大サイクロンや熱帯低気圧で自然災害が増えているため、COMERTOを防災施設としても活用する方向で考えている。2019年度に工事に着手するため昨年から必要になった建築ライセンスの取得を開始した。新型コロナウイルスの影響で行政の手続きが遅延しているためスケジュールが押しているが、2020年からは、環境面：水災害に関する防災プロジェクトの場の機能として設備整備を開始したい。

※2018年12月にスラムのナティティ地区市場近くに、土地（15m x 20m）を購入。



【 公衆衛生と食育活動 】

基本的衛生知識教育の普及と実践活動、食育活動。

《寺子屋と事務局でのこども公衆衛生教育》

2017年度から3回目となる、公衆衛生教育の実施。石鹸での手洗いや爪切り、歯磨き、トイレ掃除等での洗剤の使用方法を教える。現地は、5歳以下の乳幼児死亡率が18%と高く、20代30代の青年でも疾病で死亡することが多々あるため、継続的に公衆衛生教育を行い、健康的な暮らしの習慣を身につけている。2019年度はサイクロンや暴風雨後にスラム地区でコレラが流行したが、公衆衛生教育の成果もあり、事務局及び寺子屋に通う子供・青年のコレラの罹患はゼロであった。



歯磨きの部



うがいの部



爪切りの部

《モリンガとフルーツの育成による食べられる緑化》

栄養失調率が6割を超えるスラム地区でも栽培できる栄養価が高く、食用・薬として様々な活用できるモリンガと、フルーツを播種栽培し、スラム地区の各家庭に移植。6月からモリンガの播種、育成、移植900株を行ったが、12月末の暴風雨・洪水により、多くの苗が流されたため、2020年1月に再度、モリンガの播種を追加で500株行った。



モリンガの播種



育成



移植

【 水環境と有機農業活動 】

安全で効率的な水環境整備と有機農業の実践。

《クイサンガ農村地区 野菜の栽培》

4月のサイクロンにより農地の米も米倉庫も流されてしまった。現在、野菜の栽培を実施。農村クイサンガ地区はテロ攻撃が増加しているため、農村アソシエーションと協働し、活動を実施。当会からの人員派遣は行わないようにしている。但し、2020年1月に農村事務所も焼かれたため活動休止を思案。



トマトの栽培



レタスの栽培

成果抜群！《スラムの学舎・寺子屋への井戸の設置》

スラム地区は、1ヶ月に数回しか水道から水が出ず、また水道を敷設してない家庭も多く、安全な水へのアクセス率が低いため、スラムの学舎・寺子屋に井戸を設置。タンザニアの人力掘削業者に委託し、電気組み上げ式の井戸を設置し、寺子屋の壁面まで配管を伸ばし、寺子屋の外壁から井戸水を配水できるようにした。ペンバは非汲み取り式便所が密集しており、かつモザンビーク北部は鉱物が眠るため一般細菌や化学物質、重金属等の水質検査を日本で実施し、「飲用可能」な結果であった。



井戸掘削隊による掘削。3週間、朝から晩まで掘り続けた。

配管工事。



井戸水に大喜びのナティティ住民。

子供たちの井戸水汲み。

《エспанサオン地区作物保管倉庫の建築》

2019年4月末当会活動州を襲ったモザンビーク史上最大級のサイクロンにより農村地区の米倉庫が破壊されたため、天災を受けにくく物流の円滑化を図れるペンバ・エспанサオン地区に作物保管倉庫を建築する。土地は2019年5月に取得。外壁設置工事から着手した。



【 環境保全 】

実践環境美化と未来を見据えた観葉保全教育の実施。

《第4回ペンバ環境美化活動》

2018年度は資金不足により実施できなかったペンバ環境美化活動を2019年度第4回を実施。美化委員を15名と増員かつ、女性美化委員も5名加え、ナティティ地区とカリアコ地区にて美化活動を実施。2019年4月末に当会活動地を襲ったモザンビーク観測史上最大級のサイクロンの影響により災害対策の必要性が高まっているため、今後、新たな課題解決として災害対策も行っていく。



第4回ペンバ美化活動



本年度のペンバ美化委員

新・プロジェクト《こども環境教育ワークショップ》

当会事務局のあるペンバはタンザニアへ続く400キロのサンゴ礁を誇り、真上には海洋と内陸に広がる広大なクイリンバス国立公園がある。子供たちは狭いスラム地区から出たことがない子供たちばかりで、故郷の自然価値の高さを知らない子供たちがほとんどのため、人類の宝といえる自然遺産を守るべく、こども環境教育ワークショップを実施。実践美化と環境保全教育をペンバビーチにて実施した。



ペンバビーチでのゴミ拾い活動、ペンバで生まれた当会スタッフによる環境保全教育も実施。

【 国際交流活動 】

グローバル社会における創造的意識づくり（人づくり）活動

《日本の教育施設等での講義活動、ワークショップ、スカイプ交流》

国際協力活動やアフリカ・モザンビークの文化紹介による日本・アフリカ相互理解促進を目的に、小学校やコミュニティ施設、大学等で実施した。



門真市立沖小学校での講義



九州テクノカレッジでの講演はNHK北九州で放送された。

《第4回アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアー》

第4回目のアフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアーは

□日本公演：福島、東京、山梨、和歌山、大阪、京都、島根、福岡、長崎、大分、沖縄
11都府県40箇所で開催

□欧州公演：フランス 5箇所、ドイツ 5箇所 計：10箇所

★日本・欧州公演数：50箇所

★来場数：5,330人（国内 4884人、国外 446人）

★参加国数：約20か国（マリ共和国、南アフリカ共和国、ケニア、タンザニア、コンゴ、ブルキナファソ、セネガル、フランス、ドイツ、アメリカ、チェコ共和国、スペイン、アルメニア、コスタリカ、アルゼンチン、ブラジル、セルビア、リトアニア、スウェーデン、韓国 等）



和歌山・世界民族祭



雲仙・サンカクフェスティバル



福島中央テレビでの生放送



会津若松キャンドルライブ



パリ・ATLA



パリ・シンガーソングライター協会イベント

【 その他、緊急テロ被害・新型コロナウイルス支援活動等 】

緊急支援で、かけがえない命を守り、誰ひとり失わない地域社会づくりを行う活動

《クイサンガ農村地区 ゲリラ攻撃被災者への支援として食糧・衣料配布》

日本企業も参入するモザンビーク北部ガス田開発を起因としたイスラム過激派と見られるゲリラ攻撃により当会活動地農村地区が被害を受けているため、食糧支援 5000 円×100 家庭を実施。

《ナティティ地区テロ及び新型コロナウイルスによる飢餓対策・食糧配布》

テロにより被害を受けている農村の農民が作物を育成できず食糧が供給されない状態になっており、市場に食糧が少なく、高騰している。これに加えて、新型コロナウイルス対策により中央市場も閉鎖され、食糧危機が深刻化し始めているため、米、塩、豆などの食糧配布を実施。



浄水器配布



衣料配布



食糧配布

以上

2019年度 (2019年4月1日~2020年3月31日迄) 収支報告表

団体名: モザンビークのいのちをつなぐ会		2019年度会計報告書	
		2019年04月01日~2020年03月31日	
		(単位:円)	
科 目		金 額	
I 経常収益			
1. 受取会費		35,000	
2. 受取寄付金		1,500,000	
3. 助成金/TOTO水環境基金		1,620,000	
4. 助成金/国土緑化推進機構		705,000	
5. 助成金/TOYO TIRE		1,200,000	
6. 助成金/ゆうちょう財団		950,480	
7. 助成金/森村豊明会		1,900,000	
8. 助成金/日蓮宗あんのん基金		200,000	
9. 助成金/大阪コミュニティ財団		508,000	
10. 助成金/日本万博記念基金		2,050,000	
11. 助成金/地球環境日本基金		1,770,000	
12. 助成金/連合愛のカンパ		600,000	
13. 助成金/福岡NGOネットワーク		200,000	
12. 助成金/愛恵福祉支援財団		200,000	
経常収益計			13,438,480
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
モザンビーク人アルバイト費	798,252		
モザンビーク事務局人件費	573,555		
国際交流アーティスト人件費	800,000		
人件費計	2,171,807		
(2) その他経費			
●寺子屋設備整備			
修理修繕資材費	298,242		
委託(職人・管理)費	287,244		
●事務局修理修繕費			
資材購入費	146,245		
委託(職人・管理)費	138,777		
●寺子屋・事務局教育費			
講師費	482,132		
教材資材購入費	14,522		
国際郵便輸送費	51,920		
●公衆衛生活動			
公衆衛生資材購入費	856,222		
井戸等水環境整備費	428,906		
●ペンパ環境美化活動			
機材購入費	987,625		
委託費	322,002		
●食と公衆衛生の寺子屋・コメルト			
建築費(外壁)	535,990		
●ペンパ食育緑化活動			
資材購入費	556,223		
●配食活動			
食材購入費	272,110		
●来日国際交流活動			
旅行交通費	1,582,812		
機材購入費	82,250		
舞台運営費	620,000		
広告印刷費	1,330,000		
機材等賃借費	30,506		
●テロ攻撃支援費			
資材費(食材)運送費込	129,300		
●サイクロン被災支援費			
建築資材費	248,905		
●作物保管倉庫外壁設置			
資材建築費	176,640		
職人費	114,800		
●組織運営費			
メンバー福岡渡航費(通常活動)	495,000		
メンバー福岡渡航費(コロナ緊急帰国)	443,000		
通信費	113,000		
その他経費計	10,744,373		
事業費計		12,916,180	
2. 管理費			
(1) 人件費			
寺子屋ガード人件費	180,000		
人件費計	180,000		
(2) その他経費			
車両修繕費	155,000		
事務局賃借費	240,000		
その他経費計	395,000		
管理費計		575,000	
経常費用計			13,491,180
当期正味財産増減額			△ 52,700
前期繰越正味財産額			114,748
次期繰越正味財産額			62,048